2025 年度「卒業研究」(メディア社会学科)課題

各学期、選択した2つの課題について、最終的にレポート(各 4000 字以上)として提出する こと。

生成AI（例：ChatGPT、Claude、Gemini、Grok3以降、Deep Seekなど）の使用について

卒業研究の課題レポートに限りませんが、レポート・論文の作成において、一部でも、利用を明示せずに、生成AIの出力をそのままコピー＆ペーストして提出することは禁止されます。生成AI出力をそのままレポート・論文に含めることは、「ウェブ検索して、Wikipediaの内容をコピペした」「図書館で見つけた論文を丸写しした」と同じです。大学は、皆さんが学び、自らの知的能力を高めるための場であり、単なるコピー＆ペーストでは、学びは起きません。他方、生成AIは一切使ってはいけないということではありません。図書館で調べたり、ウェブ検索を活用したりするのと同様、学びのキッカケとして意味ある使い方をすることが重要です。レポート、論文は自身の体験や思考を自らの言葉で表現することが大原則です。生成AIを、論文執筆において利用する際には、危険性（生成AIの出力を事実と誤認し、根拠のない情報を使用すること、個人情報や機密情報の流失、著作権侵害や剽窃など）に留意し、倫理的責任と学術的誠実性を持って利用してください。生成系AIの利用は補完的な手段とし、透明性を重視して、自身の学術的成果と結び付けることが重要です。レポート、論文執筆に際して、生成系AIを利用した場合には、何をどのように利用し、論文のどの部分にいかに反映しているかの情報を明確に注記し、AIの生成過程や結果の妥当性について説明責任を果たすようにしてください。

<春学期>

【メ社１】

課題タイトル: 越境するポピュラーカルチャー

課題本文: 近年におけるポピュラーカルチャーのグローバル化、トランスナショナル化の現状やその背景、展望などについて論じること。具体的な事例や地域、または対象を取り上げて、関連の先行研究における理論的視点や概念、知見をレビューした上で、質的メディア分析またはインタビュー調査などの手法を用いて調査分析レポートを作成すること。３点以上の先行研究の論文、文献などをレビューした上で、それに基づき、問いを設定すること。質的メディア分析を用いる場合、国内外の複数の新聞や放送、その他インターネットメディアなどから、一定以上の記事データを体系的な方法を用いて収集し、質的言説分析または計量的テキスト分析などの分析手法を用いること。分析対象データの収集には、大学の図書館で利用可能な記事データベースを用いることが望ましい。インタビュー調査を用いる場合、分析対象の事例のポピュラーカルチャーのファンなどへの聞き取り調査を、5 名以上に対して 1 時間以上のインタビューを行うこと。なお、分析対象は自由に設定して良いが、データ収集、インタビュー対象者の選定に際しては、事前に出題教員に相談すること。

なお、本課題を選択する履修者は、メディア社会学科の専門科目「グローバル・コミュニケーション論」を履修済みか、履修中であることが望ましく、その講義内容のレビューの上で、分析対象の事例、理論的視点などを選択することを勧める。

参考文献

- Jenkins, Henry, 2006, Convergence Culture: Where Old and New Media Collide, New York: New York University Press（＝渡部宏樹・北村紗衣・阿部康人訳（2021）『コンヴァージェンス・カルチャー―ファンとメディアがつくる参加型文化』晶文社）

・　佐藤郁哉(2008)『質的データ分析法:原理・方法・実践』新曜社

【メ社２】

課題タイトル: 国際関係とメディア

課題本文: 外交を補完するメディアによるオルタナティブな国際関係のチャネルについて、冷戦期の1970~80年代、ポスト冷戦期の90年代、そして2000年以降の3つの時期からそれぞれ1つずつ事例を挙げ、その影響力や幅、性格の変容などを論じなさい。ネット上の記事だけでなく、本格的な研究書を３冊以上読んだ上で上記の考察を行うことが求められる。

参考文献

・　フレデリック、H. H.、1996、『グローバル・コミュニケーション―新世界秩序を迎えたメディアの挑戦』（川端末人・武市英雄・小林登志夫生訳）、松柏社
・　鶴木眞、2002、『情報政治学』、三嶺書房
・　橋本晃、2006、『国際紛争のメディア学』、青弓社

【メ社３】

課題タイトル：「スマホ依存の社会学的分析」

課題本文：2010年代、スマートフォンとソーシャルメディアはグローバルに爆発的に普及し、2020年代、私たちの日常生活に深く浸透している。24時間365日、私たちはネットに接続され、着信振動や通知、SNSの投稿・反応が絶えず気になったり、日常生活に支障が生じたりする人もいる。そこで、「スマホ依存」が社会的に問題として認知されるようになり、「スマホ脳」（ハンセン、2020、新潮新書）がベストセラーにもなった。他方、薬物、アルコールのような物質依存（dependency）に比べると、ギャンブル、ゲームやネット、スマホ、SNSなどの行動嗜癖（addiction）は、買物中毒、摂食障害、窃盗嗜癖などを含め、科学的に原因やメカニズム、定義を明確にすることが難しく、曖昧な部分が多い。そこで本課題では、依存、中毒、嗜癖、乱用といった概念について、理解を深めながら、スマホがどうして人々を惹きつけ、日常生活に障害をもたらすまでに利用が促進されるかを、IT企業側の論理と利用者側の動機・行動の観点から考え、「スマホ依存の社会学的分析」というタイトルで、レポートを執筆しなさい。
レポートでは、必ず、以下の（A）～（D）の4点について議論すること。

（A）　医学、精神医学の観点から、依存（dependence）、中毒（intoxication）、嗜癖（addiction）、乱用（abuse）の概念について、規定することが難しい要因を議論しながら、意味の重なりと区別をなるべく明確にするよう努めて各自なりの定義を行う。その際、必ず、専門的学術資料（論文、書籍等）を複数用い、レポート中で適切に言及、引用すること。

（B）　インターネット依存、スマホ依存に関する専門的学術資料（論文、書籍等）を読み、各自、どのような特徴があるかをまとめる。その際、各自のスマホ利用について、1週間に、どのようなアプリを、どのように利用しているかを自己分析し、各自がスマホ依存という観点からみて、自分がいかにあてはまるか（あるいは、あてはまらないか）を議論する。

（C）　以下の＜注意①＞に記載した2冊の本と、それに加えて、各自調べて関連あると考える専門的学術資料（論文、書籍等）を最低2点読み、スマホ依存が生み出される、IT企業側の論理について、批判的に考え、社会学的に分析する。

（D）　（C）までの作業を受けて、皆さんの友人・知人2名以上に、スマホ依存と精神的健康についてのインタビュー調査を実施し、友人・知人たちのスマホ利用、スマホ依存の状況を考察し、（B）の自己分析も踏まえて、社会としてスマホという技術とどのように付き合うことが望ましいかと考えるかを考察する。

＜注意①＞以下の2冊は必ず読むこと。

- アダム、アルター　2019　『僕らはそれに抵抗できない―「依存症ビジネス」のつくられかた』ダイヤモンド社
- 鳥海不二夫、山本龍彦　2022　『デジタル空間とどう向き合うか―情報的健康の実現をめざして』日本経済新聞社

＜注意②＞（A）～（C）でいう「専門的学術資料（論文、書籍等）」とは以下の資料を指すことにする。

- 学術的組織（「・・・学会」（例えば「人工知能学会」）か大学）や学術書出版社が刊行している学術誌に掲載されている論文
- 学術的組織、出版社が刊行しているオンライン学術誌掲載の論文は該当しますが、学術的組織、出版社刊行が確認できないネット上の（論文的な）記事は含みません。
- もちろん、学術的組織、出版社刊行ではない（確認できない）記事、政府機関や民間シンクタンク、研究所などにある論文や資料も利用できますが、上記「専門的学術資料（論文、書籍等）」にはカウントできないということです。

＜注意③＞議論の根拠や出所が不明のウェブ記事をもとにはしないこと。

【メ社４】

課題タイトル:「メディアと『忘れられる権利』について」

課題本文：2014年、EU司法裁判所は、EU圏内に居住する個人がGoogle検索エンジンの検索結果から特定のウェブページを削除するようリクエストすることができるという判決を下し、いわゆる「忘れられる権利」が認められた。
これに対応するべく、Googleは、毎年、削除リクエストについての「透明性レポート」を公開しており、そこで、どれだけのリクエストがあり、Google側が審査をして、どういう理由で除外したか、あるいは除外しなかったかについて、レポートの内容の一部を見ることができる。

課題は、三つある。
■①
「忘れられる権利」がEU圏内で施行された経緯について簡単にまとめなさい。
■②
「透明性レポート」について。
https://transparencyreport.google.com/eu-privacy/overview?hl=ja&privacy_requests=country:;year:2022;decision:&lu=privacy_requests
このサイトの中の「リクエストを探す」というセクションで、以下の三つのタブがある（「国」「期間」「決定」）。ここで「国」のタブは「すべての国」に設定し、期間は、2022年にし、「決定」は、そのまま「決定」に設定した上で、表示されたリクエスト内容と結果について、除外されたURLと、除外されなかっ

たURLに分けて、どういう理由から、それぞれ除外されたのか、あるいは除外されなかったのか、述べなさい。
■③
Google検索から検索結果が削除されたURLの中には、例えば、BBC Onlineの記事リンクなども含まれている（ただし、Google検索から消えるだけで、記事のサイト、URL自体は削除されず、BBCのサーバーに残っている）。
これに対し、BBCは、2014年以降、毎年、除外された記事のURLを表示するウェブサイトを公開している（ただし、この公開はBBCの厳格なポリシーに基づいて行われている）。
https://www.bbc.co.uk/blogs/internet/entries/1d765aa8-600b-4f32-b110-d02fbf7fd379
ここでは、記事に載せられている本人か、あるいは本人ではない誰かによるリクエストに基づいた、記事内に含まれている個人情報を保護するという「忘れられる権利」が、「報道の自由」、「知る権利」と抵触するということが起きている。この問題について、参考文献を三つ以上あげて、論述しなさい。

＜秋学期＞

【メ社５】

課題タイトル：「マスク依存とコロナ禍」

課題本文：指定された条件を満たすようレポートを執筆せよ。①～④の文量比は任意とする。利用する資料については『マスターオブライティング』を参考に必ず全ての典拠を明示すること。

「マスク依存」という言葉がある。この言葉について、

① コロナ禍以前にはどのような文脈で用いられていたか。3 件以上の新聞または雑誌（いずれも紙媒体）の記事を引用し、特に②との違いに留意しながら説明せよ。なお新聞記事の検索には、図書館が提供している新聞各紙の記事データベースを使うのが便利である。また雑誌記事の検索には、やはり図書館が提供している「大宅壮一文庫雑誌記事索引検索」が有益である。

② コロナ禍の発生を受け「マスク依存」に関する言説にどのような変化が生じたか。①と同様に3件以上の新聞または雑誌の記事を引用しつつ説明せよ。

③ 「マスク依存」が日本において特に顕著に見られる理由について、海外と比較しつつ考察せよ。なおその際、3種類以上の資料（書籍、オンライオン記事など媒体は問わない）を引用すること。

④ 今後「マスク依存」の問題にどのように対処すべきか、上記①～③の内容を踏まえ、あなた独自の見解を述べよ。（以上）

【メ社６】

課題タイトル:「オンラインソーシャルネットワーク上で観測されるあらゆる社会分断に関する言論空間の問題点に関する考察(ケーススタディなど)」

課題本文：

COVID19禍においてオンライン上でのリスク・コミュニケーションが増加するにつれさらにあらゆるリスク管理が必要な状況となっている。また、COVID-19禍でオンラインコミュニケーションが増加したことで、表出した社会的な分断(人種、身体的特徴、信条など起因とする)に関する議論に関してのオンラインメディアを起点とする意見の先鋭化、及びに併発する意見の社会的分断に関する議論も必要となった。

上述の国際紛争、より加速しつつあるSNS上における誹謗中傷に関する議論、民族・人種差別を喚起させる言論空間で併発される社会的分断に関する議論などの諸社会問題、事例をテーマとして論述してください。

テーマ事例

① コロナ禍に際して表出した社会的分断に接続する言論空間に関してオンラインメディア、SNS上での問題点に関して
② 国際紛争に付随する民族、人種差別に関する言論
③ フェイクニュース、誹謗中傷、著作権濫用、フェアユース規程とこれからの日本経済圏とオンラインメデイアの課題など
④ 身体的特徴、オンライン空間上での意見を述べる体勢に関する議論(例えば、顔出しをしない、または過剰に露出することに関して発生する社会的分断を想起する意見の分裂など)
⑤ デジタル・ディバイドに関する諸問題(デジタル環境上でのソーシャルスキル、知識を元にする個人差などを起因とする意見の分裂、いじめ問題など)また、以下の観点、議論、記事からの考察を重視されたい。

レポート作成の要綱(2025年度・卒業研究２)
①https://docs.google.com/document/d/11Ea-cdo7UTJIcNjDZsxfZVXZXD5gN9vQu6nZVyFy7pU/edit?usp=sharing

執筆につき以下のルールを遵守すること。
そして、積極的に面談予約などの連絡を取り執筆を進めること。
(1) 最低 2 つのグラフ図を用いて論述すること
(2) 上記(1)のグラフはデータを示すグラフ図であること。(ニュースサイトなどの HP や SNS などからグラフ図を引用する場合、URL などの出典を明らかにすること)を用いて 論述すること。
(3) フォントサイズは 10.5-11pt が望ましい。
(4) フォントの種類は指定しない。
(5) レポートタイトルを必ず記述すること(例:海外フェイクニュースに関する分析 など) (6) 自分自身の観点での考察を入れること。

①で紹介している文献、最新のオンライン上での多様な情勢に関してデータなどを参考にしてください。(データ、グラフなど引用、参照をしてください。)
レポート作成にあたり、文献の引用、出典などに関する参考(テンプレート)を読んで、作成をすること

参考文献(推奨文献)
[1]北口末広,2020,”<論文>ビッグデータとフェイクニュースがもたらす社会への影響―個人情報保護と人権確立の視点で―.”近畿大学人権問題研究所紀要,(34):1-34.
[2]令和２年上半期におけるサイバー空間をめぐる脅威の情勢等について
[3]北口末広,2020,”<論文>ビッグデータとフェイクニュースがもたらす社会への影響―個人情報保護と人権確立の視点で―.”近畿大学人権問題研究所紀要,(34):pp.1-34.
[4]「個人情報の保護に関する法律等の一部を改正する法律」の公布について,閲覧日2020年12月

[5]橋元良明,片桐恵子,木村忠正,是永論,辻大介,森康俊&大野志郎,2020,”中高年齢層の情報行動.“東京大学大学院情報学環情報学研究.調査研究編=Researchsurveyreportsininformationstudies.Interfacultyinitiativeininformationstudies,theUniversityofTokyo,36,:pp.264-319.
[6]・浅田太郎,竹田麻友子,吉冨康成,田伏正佳,,“「いじめ語」検出による学校裏サイト監視支援システム”,情報科学技術フォーラム講演論文集9(3),pp.679-680(2010).
[7]浅田太郎,伏見朋恵,吉冨康成,田伏正佳,“「いじめ語指数」と個人名検出を併用した学校裏サイト監視支援システム”,情報科学技術フォーラム公園論文集10巻3号,pp.749-750(2011).
[8]レポートがChatGPTで作られたことを検出するシステムを開発…AIとのいたちごっこ
https://www.businessinsider.jp/post-264206
[9]ソーシャルメディア・スタディーズ / 松井広志, 岡本健編著
[10]ケアメディア論 : 孤立化した時代を「つなぐ」志向 / 引地達也著
[11]メディアと感情の政治学 / カリン・ウォール=ヨルゲンセン著 ; 三谷文栄, 山腰修三訳
[12]「許せない」がやめられない : SNSで蔓延する「#怒りの快楽」依存症 / 坂爪真吾著
[13]「いいね!」戦争 : 兵器化するソーシャルメディア / P.W.シンガー, エマーソン・T.ブルッキング著 ; 小林由香利訳
[14]ソーシャルメディアと「世論」形成 : 間メディアが世界を揺るがす / 遠藤薫編著 ; 西田亮介 [ほか] 著
[15]ネット炎上の研究 : 誰があおり、どう対処するのか / 田中辰雄, 山口真一著
[16]ICT社会の人間関係と心理臨床 : スマホ依存、ネット依存対策に関する臨床心理士らの提言 / 小川憲治, 織田孝裕編著
[17]スマホチルドレン対応マニュアル : 「依存」「炎上」これで防ぐ! / 竹内和雄著

【メ社７】

課題タイトル: 「日本の女性におけるスポーツのあり方について」

課題本文:

スポーツ庁の「スポーツの実施状況等に関する世論調査」によると、20歳以上の運動・スポーツ実施率は。2020年からのいわゆるコロナ禍においては過去最高の水準に達したものの、2023年以降はコロナ禍前の水準に戻り、特に女性については続いて低下傾向にあるようにもうかがわれる（是永 2024　https://merkmal-biz.jp/post/74143/2　による）。

そこで本課題では、指定の調査データを分析したうえで（注１）、タイトルに関連したテーマと仮説を各自が設定し、その仮説について文献資料（注２）や分析データ（注３）をもとに検証・考察したもの（注４）をレポートにまとめることを課題とする。

10月13日（月・祝日授業日）までをめどに出題担当者となるべく面談をし、データの使い方や進行計画の確認を行った上で作成を進めること。また**中間提出の後は担当教員と必ず面談**をし、仮説を中心に内容の確認を受けること。

以上の面談は本人からの申し出の上で、原則オンラインで実施する（申し出がなければ実施は保証されないので注意）。

分析にあたっては、社会調査法３で使用したHADの利用を推奨する。

※課題の作成にあたっては、注にある条件にしたがうこと。

注１：TBS生活DATAライブラリの使用について　https://www.jds.ne.jp/datebase01j/

データをウェブ上で操作し、クロス集計などにより分析を実施する（学内での使用が原則となる）。ユーザーIDの配布準備が整い次第、メールで課題履修者に通知し、本人からの確認の連絡を受けた上で、さらにデータベースのリンクを通知するので、大学アドレスへのメールをよく確認しておくこと（本人からの確認の連絡がない場合は、IDが配布されないので注意）。

注２：下記の文献や、そこで引用されているものなどを適宜参照のこと。

・是永論 2014 「スポーツ文化とコミュニケーション」、辻大介ほか『コミュニケーション論をつかむ』有斐閣、191-199 頁

・是永論 2016 「インターネット：検索からできごとのエスノグラフィーへ」、藤田真文編『メディアの卒論：テーマ・方法・実際』（第 2 版）ミネルヴァ書房、164-192頁

・田中充・森田景史 2021 『スポーツをしない子どもたち』扶桑社新書

・下窪　拓也　2022　「スポーツ観戦者の社会的属性の検証―社会経済的地位と性別の観点から―」、『スポーツ社会学研究』30(2),pp.101-113

注３：HADによる分析用に下記のエクセルデータを履修者で共有するので、各自で活用のこと（各データの概要は下記のリンクを参照）。

①「子ども・青少年のスポーツ・ライフ・データ」（笹川スポーツ財団）2010・2019・2023年のデータ（12～21歳）
https://www.ssf.or.jp/thinktank/sports_life/datalist/index.html

②「スポーツ・ライフ・データ」（笹川スポーツ財団）2018・2020・2022年のデータ（18歳以上）
https://www.ssf.or.jp/thinktank/sports_life/index.html

③「スポーツの実施状況等に関する世論調査」（スポーツ庁）2018～2023年データ
https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/toukei/chousa04/sports/1402342.htm

なお、年代や性別などの属性による差については、ただ差があることを結果として示すのではなく、具体的な差について、その差が生じる要因に関連した分析や考察を行うこと。運動や競技の内容については、調査データとして扱われているもののうち、なるべく一つに絞って考察することがのぞましい。

以上

【メ社８】

課題タイトル: 「近年の芸能スキャンダル報道の論理：何が、いかに問題なのか」

課題本文:特定の具体的事例を選んだ上で、報道における批判の観点と論理を明らかにせよ。

問いとして文章化すれば、「何が、いかに問題か。それらは変化したのか。したとすれば、どのように変化したか」である。

先行研究の批判的整理においては、少なくとも3つの論考を挙げよ。

近年の日本の芸能スキャンダルは、スキャンダルの内容によって4つ程度に類型化することができる。①セックス、②炎上やイジメ、③反社会的勢力との関係、④不適切な金品の授受や扱い。

いずれも、以下のような特徴がある。

特徴1. 極めて強い社会的制裁（サンクション）を当人が受ける。場合によっては自死に至る。

特徴2. 問題が解決したか否かに拘らず、急速に終息する（忘却される）。

特徴3. 理性よりも、感性に基づいた（感情的な）批判が多い。

特徴4. 人間の欲望に「忠実な」事件が多い。

洋の東西を問わず、また時代を問わず、スキャンダルとは一様に、そのようなものかもしれない。しかし近年の日本の事例を見れば、上記の傾向を強めているようである。

スキャンダルへの反応を「サンクション」とみれば、昨今のコンプライアンスやガバナンス、あるいはポリティカル・コレクトネスなどの「規範」が強まっていることの裏返しといえる。

理性的ではなく、感情的あるいは情緒的な反応、すなわち忌避感や嫌悪感が強いのは、中世における「魔女裁判」のようだ。感性に基づいた感情的な批判は、共感を呼びやすい。SNSでも拡散しやすい。

一方で、論理が不可視となる。

一連のスキャンダルは、いかなる論理によって問題とされたのであろうか。何が（what）、いかに（how）問題なのか。「何が（what）」は、観点といってよい。「いかに（how）」は、論理である。観点や論理は動的である。静的、つまり一定かつ不変とは限らない。

以上を踏まえた上で、具体的な事例について論じなさい。要件は、以下の4つである。

要件1）スキャンダルの事例は、1つか2つにせよ。多ければ良いというものではない。

要件2）動的に捉えよ。時間軸上での変化を見よ。ただし結果として、静的であることはありえる。

要件3）観点と論理に分けよ。観点は批判者が有する。観点は1つとは限らない。

要件4）分析対象のアクターは、組織やメディアや個人の、いずれでも良い。アクターは、最大でも3とする。　例）テレビ局や新聞社、番組や雑誌、記者やジャーナリスト。

以下、説明を付加する。

▼論考において最重要なのは、論理である。ただし、論理を支えるのは論拠である。適切な論拠を示しつつ、論理的に考察せよ。

▼量は質を呼ぶ。基本的に、字数は多い方が良い。

▼地の文のコピーペーストは論外である。ただし、引用箇所は除く。名文や美文は求めない。求めるのは論理である。

▼結論を明確にせよ。結論は、冒頭の「問い」に対応している必要がある。

▼追記すれば、スキャンダルの類は、悪いに決まっている。「悪いことだ」などの記述は一切不要である。さらにいえば、良い／悪いという価値から離れよ。価値中立（価値自由）的な論考を求める。